

## 次号予告

### 特集 若い力：高校生の問題解決

高校生が挑む「快適！スクールバスプロジェクト」

.....五十嵐歩美（筑波大学大学院システム情報工学研究科）  
最短路問題を用いた津波避難時間の計算とその考察

.....田中彰浩（筑波大学大学院システム情報工学研究科）

茨城県北復興応援バスツアー.....稲葉言史（筑波大学大学院システム情報工学研究科）

高校生による復興まちづくり.....盆子原 歩（筑波大学大学院システム情報工学研究科）

浜松市南部における津波避難ビル配置のボロノイ図を用いた分析.....安藤和敏（静岡大学工学部）

スーパーコン：高校生・高専生の電腦甲子園.....渡辺 治（東京工業大学情報理工学研究科）

### メーリングリストに登録しよう

本学会のメーリングリストに登録すると、学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナー等の催し物に関する最新情報が得られます。OR学会の活動に特に関心のある方ならば、誰でも登録できます。登録方法については、<http://www.orsj.or.jp/members/mlhowto.html>をご覧ください。

### 編集後記

●バシエック・フバータルは、著書「線形計画法」（阪田省二郎、藤野和建・訳）において「線形計画法の理論が多くの人々に知られるようになるとともに、新しい領域で多くの思いもかけない応用がなされるようになった。逆に、このような応用が、それがなければ関心を引き起こさなかったかもしれない問題を解く必要性を浮き彫りにすることによって、理論的な研究の推進に拍車をかけた。理論と応用のこのすばらしい共演によって、応用数学の新しい分野が確立された。」と書いています。

●また、フバータルは同書で「17世紀に力学を解く必要性から解析学が発展したように、20世紀には経営上の問題を解く必要性から線形計画法が発展した。」とも書いています。

●このように理論を深めることと応用を広げることは決して独立した営みではなく、応用上の必要性が研究者の視野を広げ、新たな理論の糸口を見いだすきっかけを与えてきました。

●もう一つ強調したいのは、共同研究や応用事例に取り組むことだけが異分野コミュニケーションの形ではないということです。何か成果を出さなければならないと気張ることはなく、他分野の方々から面白い話を聞いて、一緒に議論をして楽しかったという経験の積み重ねで構わないのではないのでしょうか。

●あまり偉そうなことを言えた立場ではありませんが、特に若い研究者の皆さんは、たまには気晴らしのつもりで普段の専門分野とは違う話を聞きに気軽に出掛けていただければと思います。

（梅谷俊治）

### オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 池上敦子（成蹊大学）

関西支部編集委員長 三道弘明（大阪大学）

関西支部編集委員 蓮池 隆（大阪大学）、梅谷俊治（大阪大学）

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成26年5月号 第59巻 第5号 通巻641号

代表者 大宮 英明

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.osrj.or.jp/>

編集人 池上 敦子

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。

・本誌への広告のお申込みは、明報社（Tel 03-3546-1337）へ。